

■豪州：AGL エナジー、2050 年までに脱石炭火力

大手電力会社の AGL エナジーの Andy Vesey CEO は 2015 年 4 月 17 日、今後、再生可能エネルギー発電への投資に注力し、石炭火力発電所の建設を行わないとする方針を明らかにした。また、2050 年以降は、既設石炭火力発電所の運転延長もしないとしている。しかし、温室効果ガス削減の観点から、二酸化炭素回収・貯留（CCS）設備がある発電所はこの方針からは除外するとしている。Vesey CEO は、2015 年 2 月に AGL エナジーの CEO に就任、国内の電力需要が低迷する中、市場シェアと売上高を確保するために、経営改革に着手していた。同氏は米国出身で豪州での電力・エネルギー業界での経験はなく、CEO 就任以前は、米国の大手電力会社 AES グループの前 COO 兼副社長を務めていた。